

## ごあいさつ



公益社団法人 日本WHO協会  
理事長 関 淳一

今年の夏は、日本各地で最高気温や猛暑日の連続記録が更新される等、殊のほか厳しい暑さでした。8月の終わりに近づき、ようやく猛暑日から少し解放され、熱中症による搬送、意識消失、死亡などの報道も聞かれなくなりました。ただ、このような猛暑は、日本だけでなく、ヨーロッパの国々でもみられた様で、その背後にある地球全体の気候の変化を推測させます。

WHOも世界気象機関(WMO)と共に数日以上続く猛暑日が人々の健康や社会に及ぼす影響への対処について注意を喚起しています(<http://www.who.int/globalchange/publications/heatwaves-health-guidance/en/>)。高齢社会の先頭集団を行く我が国にとって、今後考えておくべき課題の一つと思います。

今年の世界保健デーのテーマは「食品安全」です。私達はこのテーマを少し拡大解釈して、「食」全般について、共に考える一つの良い機会にしたいと考え、さる6月に「食と健康」と題したフォーラムを開催致しました。

フォーラムでは、大阪青山大学健康科学部の東根裕子教授に「子どもの食生活と大人の肥満」という非常に興味あるテーマについて永年の御研究の結果をもとに、分かり易く御講演いただく事ができました。今回、フォーラムでの御講演の内容を誌上で報告いたします。お忙しい中、御講演をお引き受け頂きました東根裕子先生に、この場をお借りして、厚くお礼を申し上げます。

また、今回「食品安全」と関連して、内閣府の食品安全委員会 化学物質・汚染物質専門調査会 専門委員をつとめておられる圓藤吟史先生に、森永ヒ素ミルク中毒事件が記憶にある、化学物質のヒ素の生体への影響について「食品中のヒ素は安全か」と題した解説を御寄稿頂きました。日頃、学ぶ機会の比較的少ない、化学物質独特の健康への影響のしかたを理解する上で極めて参考になるものと思います。ご多忙の中、御寄稿頂きました、圓藤吟史先生に心からお礼申し上げます。

今年7月7日に「たばこの蔓延に関するWHO報告2015年版」が発刊されました。この報告は、2008年以来シリーズで発刊されており、今回は第5版にあたります。今回の第5版では、たばこ需要に対し抑制効果の高いたばこ税制について特集されています。今回、日本禁煙推進医師歯科医師連盟会長であり、私共の協会の理事でもある大島明先生に、「たばこフリー日本の実現に向けて」と題して、その概要について御寄稿頂きました。今後、禁煙活動を進めるにあたって、考えるべき、参考になる内容と思います。

今回「目で見えるWHO」第58号を発行するに当たり、ご協力いただきました皆様に、改めて心から御礼を申し上げます。